

2018 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [兵庫県立赤穂高等学校] 担当教諭名 [森戸 隆文] (3年 1・2・4・5 組 22名)

相手国・地域 [インドネシア]

海外学校名 [SMA 3 Bandung] 担当教諭名 [Wiwin Herawati]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	情報 (情報の表現と管理)	第1章 情報活用とメディア コミュニケーションの基礎	5
	情報 (情報の表現と管理)	第2章 情報の表現 文書による表現・動画像による表現・プレゼンテーション・ネットワークを利用した情報発信	20
	情報 (情報の表現と管理)	第3章 情報の管理 コンピュータによる情報の管理と活用	5
	課外活動	想いを壁画に表現	10

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	文化の融合
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	自国・地元の魅力を再発見・再確認する。さらに、異国とのコミュニケーションを通して、より一層の自国・地元を愛する態度・誇りを醸成することで、地元愛をメッセージとして届ける。
	

■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・赤穂の魅力を日本語・英語でまとめた。 ・赤穂の魅力を英語にまとめて「赤穂すごろく MAP」を作成した。 ・インドネシアの文化を理解できた。 ・バンドン高校と壁画を共同制作した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通信環境を考慮して、Zoom 等も検討したい。 ・ガントチャート等も作成し、日本側が先導し、計画通りのプロジェクトができるように工夫したい。 ・相手のことを考慮して、わかりやすく、何をすべきが明確に提案する工夫が必要である。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が海外との協働学習が意外と簡単であると実感してもらえ、海外との距離が縮まった。 ・新しい取組に対して不安があったが、この取組を終えて、新しいことに挑戦する楽しさを知ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語の壁や文化の違いに戸惑い、普段の仕事以外に相手を考えなければ協働が続かないことを学んだ。先進国である日本人として、グローバルリーダーを意識し、教員間の連携からしっかりすべきであると意識を変化することができた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	7月	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介ビデオ作製 Skypeで自己紹介 赤穂の魅力を調査し、それを日本語・英語、それぞれでまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地元の魅力の再確認ができ、赤穂の良さに気づいた。 アートマイルのを知り、自らアートマイルについて調べ始めた。 	情報 5
共有 テーマ学習	9月 10月	<ul style="list-style-type: none"> 赤穂市の魅力に関して、フォーラムを通じて、発信した。 インドネシアの文化に関して、フォーラムを通じて理解した。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい出会い、発見により、徐々に積極的に活動に参加する姿勢が見られた。 	情報 10
融合 想いを形に ・メッセージ ・壁画デザイン	10月 11月	<ul style="list-style-type: none"> 紹介により知ることができた文化を、さらに自分たちで調査した。 観光マップを作成するために、赤穂市観光協会と近隣中学生を招き、意見交換会を開いた。 	<ul style="list-style-type: none"> インドネシアの文化を自主的に調べるようになった。 外部連携により、自分たちの取組について、より一層真剣さが増した。 	情報 10
創造 壁画制作	12月 ～ 2月	<ul style="list-style-type: none"> 自国・地域を愛する気持ちを大切に、壁画を描いた。 文化の融合をテーマに構図について話し合った。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの生徒が自分流に描くため、当初の構図とは異なり、生徒同士の協働作業する際の意思疎通の難しさに気づき始めた。 	課外活動 10
評価 振り返り 自己評価	2月	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が今までの活動を振り返り、感想を書いた。 	<ul style="list-style-type: none"> もっとインドネシアの生徒と積極的に意見交換したいという意欲が見られたと同時に、自分たちの積極性の足りない部分も気づくことができた。 	情報 5

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価（5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった）

学習目標・つきたい力	評価	先生が手応えを感じた場面・理由
自文化を理解する力	5	今まで赤穂を知ろうとしなかった生徒が、今回の取組で赤穂の魅力の再確認ができ、目標の1つである「地元愛」を育むことが達成できた。
異文化を理解する力	4	異文化は自分と関係ないと思っている中、実際にインドネシアと交流し、現地の写真を見ることで、関係ないという考えが変わった。
情報活用能力 (収集・まとめ・発信)	4	赤穂の魅力をまとめる際に、どうすれば相手によりよく伝わるか考えながら、情報をうまく活用できた。
コミュニケーション力 (双方向・共感・英語)	4	相手との会話が英語のため、最初は返信することに躊躇していたが、慣れるうちに返信までの時間が短くなっていった。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	3	普段の学習では、批判的思考で考える機会が少ないため、相手の意見を全面的に認めることで進めていた。今後、この思考力を鍛えるための特別な授業を設ける必要性を感じた。
主体的に考え行動する力	3	自分たちで進んで進める中、普段リーダーシップを発揮しない生徒も積極的に行動する場面を多くみることができた。
他者と協働する力 (学級内・海外の相手)	4	相手から返信が来ないときも、相手国の状況を調べ、関連する話題で相手との協働するきっかけを絶やささないよう心掛けていた。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	4	地元愛を目標の1つとし、最後までその想いが変わらず、相手と続けられたのは、想いがしっかり言葉となり相手に伝わったからである。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	4	調査内容や取組内容を振り返り評価すると、他者評価が優しい。今後は批判的思考力を鍛え、他者評価する力も共に鍛えたい。